

はじめに

2019年12月8日中国の一都市でひっそりスタートした〈SARS-CoV-2に因る COVID-19〉はパンデミックに仕立て上げられて、特に日本人の自分で判断する事が大の苦手な国民性も相まって、マスク一つ着けるかどうかで大混乱している始末です。さすがにこの世界的詐欺事件に皆が気付き始めて、ワクチンという事になっている〈遺伝子組み換え治験溶液〉に関しては中止された国もある一方で、日本のように一人当たり8回分(計8.8億回分)の治験溶液を押し付けられて多くの人たちがその恐ろしさに気付き、接種を止め始めたために使用期限切れで廃棄処分が始まっている国もあります。

さて、全ての症状や疾患には必ず原因があります。今日の医療現場では主に〈対症療法〉が中心になっております。患者や怪我人の苦痛を除去する事も重要ですが、やはり原因を取り除く〈根治療法〉が求められます。

2020年版で年間死亡数を138万人とお伝えしましたが、2022年の年間死亡数(速報値)は158万人と僅か数年で20万人も激増したのは何故か? その原因として、やはり2021年2月から開始された遺伝子組み換え治験溶液の接種は否定出来ません。しかし、大半の国民はマスメディアに〈コロナは怖い〉と騙されましたが、悪性新生物・心疾患・老衰・脳血管疾患では年間10万人以上死亡しているのです。

コロナだけが恐ろしい病気ではありません。科学的に、客観的に、そして冷静に判断する事が望まれます。そしてそれらに罹患した時にどれ程の費用が必要なのかにも関心を持っていただきたいと思います。

この小冊子が参考になれば何よりの喜びです。

2023年初夏 監修者しるす

もくじ

〈Ⅰ〉公的医療保険制度の仕組みと内容	3
・医療保険制度と自己負担	4
・自己負担の仕組み	5
・保険でカバーできる診療範囲	6
・重くのしかかる自己負担	8
・主な先進医療	9
・医療費が高額になった時	10
・通院にも使える限度額認定証	12
・高額療養費の盲点	13
・DPC(入院費包括払い制度)	14
・公的医療保険が使えない診療行為	15
・病気やケガで仕事を休んだ時	16
・出産・死亡等には一定額の支給も	17
・年間医療費が10万円を超えた時	18
〈Ⅱ〉がんの再発率と5年生存率	19
・がんの再発率	20
・早期のがんは治る時代です	22
・肺がんの5年生存率	23
・胃がんの5年生存率	24
・大腸がんの5年生存率	25
・子宮頸がんの5年生存率	26
・子宮体がんの5年生存率	27
・乳がんの5年生存率	28
・肝がんの5年生存率	29
・膵臓がんの5年生存率	30
・食道がんの5年生存率	30
〈Ⅲ〉主な傷病別医療費	31
・肺がん	32
・胃がん	33
・大腸がん	34
・肝がん	35
・乳がん	36
・子宮がん	37
・膵臓がん	38
・心疾患	39
・脳血管疾患	40
・糖尿病(2型)	41
・腎臓がん(通院治療)	42
・骨折	43
・妊娠中絶	44
・気になる差額ベッド料	45
・入院時食事療養費	47



乳がん

《早期では 90% の 10 年生存率》

(K大学医学部付属病院)

Stage	10年生存率	T	N	M
I 期	90.2%	T1	N0	M0
II A期	82.7%	T0	N1	
		T1	N1	
		T2	N0	
II B期	68.9%	T2	N1	
		T3	N0	
III A期	37.9%	T0	N2	
		T1	N2	
		T2	N2	
		T3	N2	
		T4	N1	
III B期	37.5%	T4	N0~N2	
IV期	6.7%	T0~T4	N0~N3	M1

●全体では70~80%

T0：原発巣を認めず

T1：大きさ≦2センチ

T2：2.0<大きさ≦5.0センチ

T3：大きさ>5センチ

T4：大きさ問わず+胸壁固室、皮膚の浮腫・潰瘍

再発時

5年生存率 49.5%

10年生存率 22.7%

© 谷 康平 / 社会医学環境衛生研究所



がんの再発率

《いったん治っても・・・》

がんの再発

組織的に確認されたがんが治療によって臨床的に消失し、一定期間を経過した後に、同部位または近辺に再び同じ組織型のがんが発生すること。ただし、がんの再燃(ホルモン療法等で体に残っているものの休眠状態にあったがんが、再び活発に増殖に転じること)や多発がんは除外する。厳密には、治療によって根絶されず耐え抜いたがん細胞が時間を経て成長し、臨床的に発見された場合が再発である。

●肺がん

・再発率 (非小細胞がん・根治手術可)

	(1年)	(3年)	(5年)
I A・B期	1～2%	2～3%	5%
II A・B期	5～8%	6～9%	10～12%
III A期	10～15%	18～20%	25～28%



●胃がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I期・II A期	0～3%	2～9%	12%
II B期	5%	12%	



●子宮頸がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I期	0%	0%	0%
II期	3%	3%	10%

※かつては女性生殖器がんの中で最も多く、5割以上は子宮体がんの再発率が高い。



●子宮体がん

・再発率

	(1年)	(3年)	(5年)
I期	3%	3%	5%
II期	6%	6%	12%

※近年増加傾向で全子宮がんの50%以上を占める。手術療法が第一選択。化学療法も放射線療法も効果が薄い。



肺がん



概要

高齢男性に多い悪性腫瘍です。悪性腫瘍の部位別死亡率では、男性で第一位、女性で第二位となっています。喫煙やアスベスト曝露(ばくろ)、慢性閉塞性肺疾患などが原因となります。扁平上皮がん、小細胞がん、腺がん、大細胞がんに分類されます。特に小細胞がんでは進行が速く、診断時には浸潤や転移していることも多く、予後は不良です。

症状

せき、喀痰、喀血、発熱、体重減少などが見られます。また、腫瘍が拡大し周囲の臓器へ浸潤、圧迫することで、嘔声、嚥下困難、胸痛などがみられることもあります。

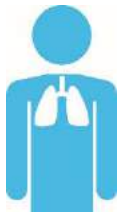
検査・治療

肺がん検診では胸部 X 線検査や喀痰細胞診などが行われます。肺がんが疑われた場合には胸部 CT や気管支鏡検査を行います。治療は組織型や病期、患者の全身状態や他臓器の機能などを考慮して、切除可能であれば外科手術、その他、放射線療法や化学療法などが選択されますが、発見された時点で切除不能な例も多くあります。近年では開胸手術よりも出血量や合併症、入院期間などの面で優れた胸腔鏡手術が手術療法の主流となっています。

具体例

55歳男性。粉塵作業に長年従事していた。喫煙歴35年。会社の定期健診で異常所見が見られ、精査の結果、肺腺がんが発見された。

入院:19日。



標準的な医療費(患者本人の自己負担分のみ)

計 38.6 万円

(これ以外にも、差額ベッド料、寝具料、その他雑費等も必要になることがあります。)

医療費明細

〈包括評価部分〉……………639,600円

〈出来高部分〉……………572,200円

医療費合計…………… 1,211,800円

患者負担額(3割)…………… 363,540円

食事標準負担額…………… 22,540円

患者負担額合計……………386,080円

事前に高額療養費の適用を申請している場合

27万8,838円(標準報酬月額83万円以上)

19万6,478円(標準報酬月額53万円~79万円)

11万2,088円(標準報酬月額28万円~50万円)

5万7,940円(標準報酬月額26万円以下)

なお、住民税非課税の人の自己負担限度額は月額3万5,400円。(別途食事費用負担額)

—監修者略歴—

谷 康 平

昭和 28 年(1953 年)京都生まれ
追手門学院小／灘中／大阪医科大学卒業
(米国)Stanford 大学公衆衛生大学院リサーチ・フェロー

The Academy of Political Science(米国シンクタンク)・フェロー
AAAS(全米科学振興財団)・専門職会員
ACS(米国化学学会)・会員

社会医学環境衛生研究所所長(株式会社パブリックヘルス研究所)

医療法人医誠会・ホロニクスグループ顧問
学校法人滋慶学園グループ顧問・大阪滋慶学園評議員
大阪済生会野江看護専門学校講師
環太平洋未来研究所監査役
大阪府病院協会看護専門学校講師

[著書]

知らないと本当は怖い現代人の病気(土屋書店・新書)など

政府・自由民主党への政策提言(人口減少問題など)

2023 年 6 月 **こんなに**かかる医療費

2023 年 6 月 24 日発行 定価 1,210 円(本体 1,100 円+税 10%)

監 修 谷 康平(社会医学環境衛生研究所 所長)

企画／編集 巽 文雄

発 行 株式会社 新日本保険新聞社

〒555-0004 大阪市西区靱本町 1-5-15

TEL.(06)6225-0550(代表)

FAX.(06)6225-0551(専用)

<https://www.shinnihon-ins.co.jp/>

ISBN978-4-910503-12-7

本書の内容を無断で引用、掲載することは、著作権法で禁じられています。利用する時はご相談下さい。
ネット等の電子メディアでの無断転載等も同様です。

本書で提供する情報を利用することで生じたいかなる損害及び問題に対しても、弊社及び監修者・編者は一切の責任を負いませんので、ご了承下さい。